

山形県立ゆきわり養護学校 5・6年 生活科

ハロウィンパーティーをしよう



日 時：令和 6 年 10 月 31 日（木）13：45～14：10
 場 所：視聴覚室
 対 象：5 年 2 名、6 年 3 名
 授業者：T1 佐藤充 T2 安達瞳 T3 大城恵 T4 横尾百音

1 主に活用した機器・コンテンツ

・一人一台タブレット (iPad) ・Mabee ・i+Pad タッチャー ・ビッグマック (VOCA) ・レバースイッチ ・リレーボックス

2 授業

(1) 本時の目標 (生活科 1 段階)

- ・スイッチ、レバーを押すことで、ものが動いたり、光ったりすることに気づく。(知識及び技能)
- ・スイッチ、レバーとももの仕組みや働きの面白さに気づき、進んで取り組む。(思考力・判断力・表現力等)
- ・スイッチ、レバーを押していろいろなものを動かす活動に期待感をもって取り組む。
(学びに向かう力・人間性等)

(2) 指導過程

時間※1	●主な学習活動	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力 ※2
導入 5分 一斉	●ハロウィンパーティーの準備をしよう ・教室で仮装して、音楽を流しながら視聴覚室へ移動する。 ●中に入ってみよう ・懐中電灯で教室を照らしながら中へ入り、スイッチやレバーで動くものを確認する。	・スイッチがある場所にライトを置き、児童がスイッチを見つけやすくする。 ・スイッチに光る、動くもののイラストを貼る。 ・室内を暗くして、光る仕組みがわかりやすい環境にする。 ・児童が暗い中でも操作するボタンや動くものに注目できるように、教師がライトで照らす。		
展開 20分 個別 C1	●いろいろなスイッチを押して作動させて、ハロウィンの雰囲気を楽しむ。(Mabee を活用したものを含む) ①ジャックオーランタンを光らせよう ②おおかみさんからお菓子をもらおう。 ③おばけを見つけよう ④ライトをつけて部屋を綺麗にしよう ●みんなで踊ろう ・ハロウィンの動画が TV に映り、みんなで踊る。	① Mabee と i+Pad タッチャーを使用して、ビッグマックを押してライトを点灯させることができるようにする。 ○ICT 活用ポイント1 ・手を動かしてビッグマックやレバースイッチを操作することで、ライトが点灯することに気づく ②では、リレーボックスとビッグマックを使用している。ビッグマックを押すことでサーキュレーターが作動しておおかみのイラストが貼ってあるビニールが 15 秒ほど膨らむ。 ③では、ビッグマックを押すことでブラックライトが点灯し、おばけのイラストが光るようにしている。	・Mabee ・i+Pad タッチャー ・タブレット端末 (iPad) ・レバースイッチ ・リレーボックス ・ビッグマック (VOCA)	C1①a 事象と関係する情報を見つけようとする C1②a 問題解決における情報の大切さを意識して行動する

		<p>○ICT 活用ポイント2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を動かしてビッグマックやレバースイッチを操作することでおばけが光ることに気づく。 ・④では、リレーボックスとレバースイッチを使用している。レバースイッチを操作して、電飾を点灯できるようにする。 		
まとめ 5分 一斉	<p>●ハロウィンパーティーの終了 「今日のパーティーはこれでおしまい。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風が吹いてパーティー会場から吹き飛ばされて廊下に出る。 		

3 ICT 活用ポイント

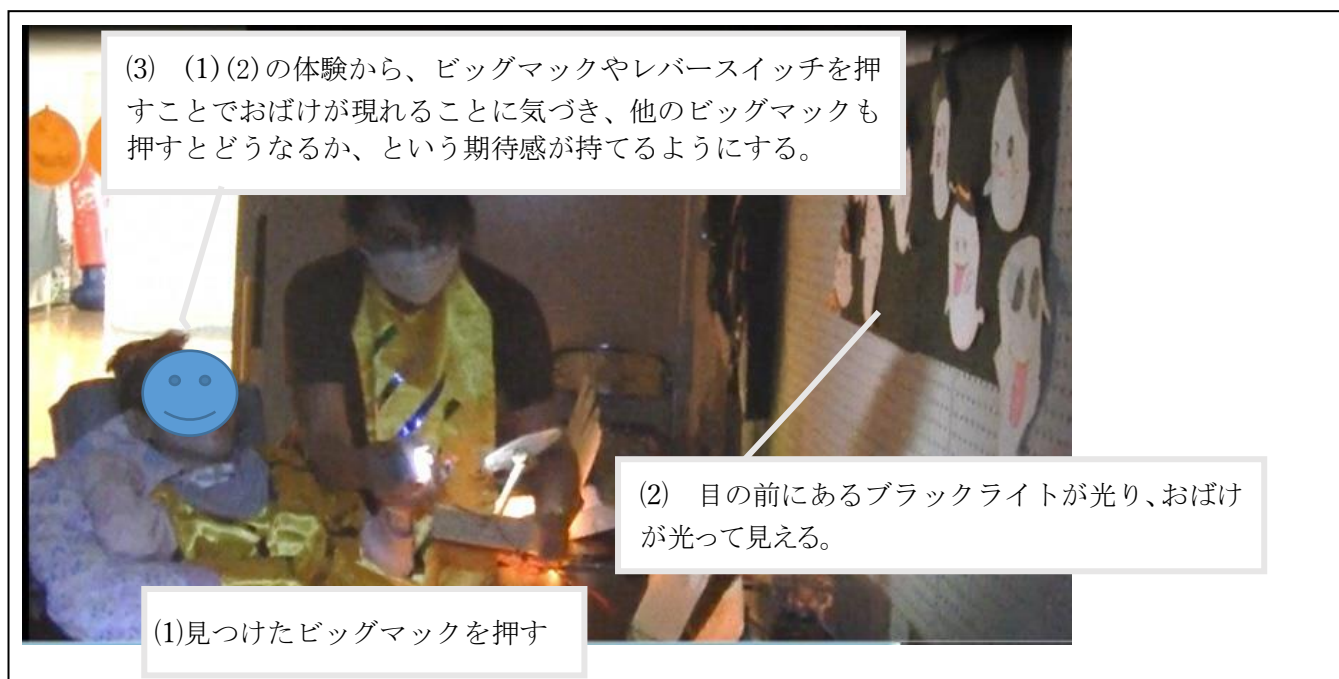
ICT 活用ポイント1

iPad、i+Pad タッチャー、Mabee を使用している。ジャックオーランタンの中の電池で光るライトに Mabee を入れ、ビッグマックを押すことでジャックオーランタンが光るようにしている。スイッチをもう一度押すとライトが消え、繰り返しオン、オフができるようにしている。



ICT 活用ポイント2

iPad、i+Pad タッチャー、Mabee を使用している。機器に Mabee を接続し、ビッグマックを押すことでブラックライトが光り、壁に取り付けたおぼけのイラストが見えるようにした。ビッグマックをもう一度押すとライトが消え、繰り返しオン、オフができるようにしている。



4 活用の成果

- ・ビッグマック、レバースイッチを押すことで教室に設置した教材が動いたり、光ったりすることに気づき、その変化を楽しんだ。
- ・活動する中で、あるいは回を重ねることで、自ら押したいスイッチを探したり、見つけたビッグマック、レバースイッチに近づいて繰り返しそれらを押したりして、活動に取り組むことにつながった。
- ・ハロウィンパーティーに関連した教材を作成し、iPadのアプリやそれに関連する機器の操作によって、物が動かせたり、光らせることができたりすることで、児童が期待感を持って活動できた。